

# 特別の教科 道徳 授業づくり講座

第1回教材研究会(令和2年9月29日) 高知市立一宮中学校

発行 令和2年12月  
高知市教育委員会  
学校教育課

【主題名】 命の尊さ D-(19)

【教材名】 「くちびるに歌をもて」(3年「新しい道徳3」東京書籍)

【授業者】 土合 優歩 教諭

【ねらい】 命を脅かすような困難の中で、あきらめることなく何としても生きようとした主人公たちの姿を通して、ずっとつながってきた一つしかない生命を守り、これらにつなげていこうという心情を育てる。

## 模擬授業



## 【指導上の工夫】

### <自分自身との関わりで考えるための工夫>

・切り返しや補助発問をたくさん取り入れ、本音に迫れるようにする。

### <多面的・多角的に捉えるための工夫>

・本校で作成している「道徳の授業の一宮スタイル(スタンダード)」の中のキーワードを活用する。  
・中心発問では個人でじっくり考えさせた後、グループで意見交流し、さらに考えを深めさせる。(司会カード利用)

### <主題に迫るための工夫>

・「命を大切にすること」ということは「他のものを大切にすること」とどう違うのかということを考えさせる。  
・「自分の命」も「他の人の命」も同じくらい大切であることに気付かせる。

## 指導・助言

高知市教育委員会 森岡 亮 指導主事

### ●児童生徒の実態把握が大切

・道徳科の授業において、授業を受ける児童生徒の道徳的諸価値の実態をしっかりと把握し、児童生徒の実態に応じた指導が重要である。挿絵提示の有無やテンポの速さ等については、生徒の実態に合っていれば問題はない。

・補助的で段階的な発問はなくてもよい場合もある。教材を読んだ後、いきなり中心発問という入り方もある。児童生徒の実態から教材研究を行い、児童生徒の教材理解の方法や発問数などを工夫し、考え議論する授業につなげていく。

### ●本教材における授業づくりのポイント

・この教材の主人公が置かれている状態が、日常とは違う極限状態であるということを生徒に分かってもらい、その極限状態での主人公の気持ちの変化や考え方から、ねらいに迫る。

・中心発問において、生徒から出てくる意見がストレートで、表面的な意見ばかりが出るようであれば、次のような揺さぶりや補助発問を用いて価値を深めてはどうか。

→「歌を歌うより、体力を失わないようにじっとしていた方がよいとは思わなかったのか？」  
→「日常生活での歌」と「命の危険がある中での歌」の意味の違いはあるのか？

### ●一宮中学校が実践している22の鍵

・授業の振り返りで実践されている22の鍵のうち、どの鍵について考えることができた時間だったか、評価をすることで生徒は授業の振り返りがしっかりでき、教師も授業の評価と次への改善に役立てることができる。ぜひ参考にしてもらいたい。

## 研究協議

協議の視点:

- 「命を大切にすること」ということについて、自分自身との関わりで考えることができていたか。
- これまでの学習を思い出しながら、「命を大切にすること」ということについて、多面的・多角的に捉え、考えることができていたか。

### ●「命を大切にすること」ということについて

中心発問で個人の考えをどう深めるか。個人で考える時間の確保と、個人の思考をグループや全体で共有する授業スタイルになっている。

生徒の発言に対して授業者が、「それはどういうこと?」「もう少し詳しく言うと」などの切り返しがあり、より個人の思考を詳しく語らせる工夫がされている。

### ●「中心発問(お嬢さんの歌がどのようなものを与えてくれたのか)、補助発問」について

指導案にある中心発問では、生徒の思考は浅く、多様な意見は出てこないのではないか。

発問と発問のつなぎ方が大切になり、生徒同士の意見をつなぐことで、より深い思考になっていくのではないかと。

### ●板書や思考ツールについて

教材の内容理解や情景をイメージさせるために、教科書の挿絵等の掲示も効果的ではないか。

生徒から出てきた意見を「命を大切に」の周りにどんどん書き出し、線や矢印でつなぐことで、つながりや関わりが視覚化され、命の大切さについて、より深い思考につながるのではないかと。

グループ協議



→ 全体発表



## 参加者の感想

・教科書を閉じての授業展開がすごく参考になった。国語科の授業のようになりがちな道徳の授業ですが、今日の学びを自分の職場に広げていけるようにしたい。

・内容把握に時間がかかっているのが、教科書に頼らず、ペアやグループで確認すること、朝読書の時間等を使って事前読みすることなど、取り入れるようにしたい。

・学校として、一定の学びのスタイルが確立されていることは強みであると思うので、自校でも考えていきたい。

・中心発問までのテンポのよさが良かったので、活かしていきたい。教材の内容をペアで確認させるのが良かった。今日の内容で「命の大切さ」に迫ることができると思うので、授業研究会が楽しみ。

・昨年度、南国市で一宮中の発表を聞いて、どんな感じの授業なのか、すごく気になっていた。今日、その一宮中の模擬授業を見られて、とても良かった。研究授業がどのような授業になるのか、ものすごく楽しみ。

・苦手分野ですが、他校の先生方や一宮中スタイルを知ることができて、勉強になった。

・指導案の段階で中心発問まで短くして時間を取るようになっているが、やはり前半の部分がふくれて、深まるところまでできていない。本日の講座で教材理解をある程度したうえで、いかに自分事として考える時間を仕組むかが大切であると学んだ。思い切って踏み込む授業も実践していきたい。